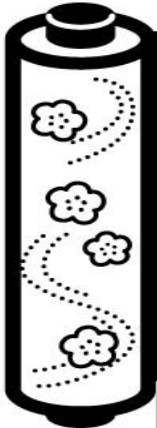
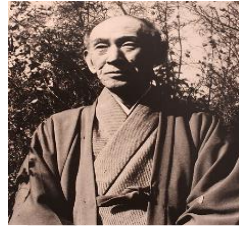


# 近藤浩一路記念 南部町立美術館



・ 2階が美術館です。



近藤浩一路画伯



・ 浩一路アトリエ



山梨に水墨画の美術館って南部町にしかないんですよ。水墨画の歴史は、日本では鎌倉時代に伝わり室町時代にはいろいろな風景や植物生き物が描かれるようになりました。歴史をしらべていくと楽しいよ！

・ 浩一路の水墨画の特徴は？

\*山梨県の最南端！南部町ホームページもみてね。 <https://www.town.nanbu.yamanashi.jp>

## 【近藤浩一路ってどんな人？】

明治17年、南部町に生まれました。その後、静岡県にうつり住み、葎山中学校（現・葎山高校）を卒業すると東京の美術学校（現・東京芸術大学）に入学し、洋画（油絵）の勉強をしました。大学を卒業すると新聞記者としてまん画も描き漫画家として有名になった時代もありましたが、徐々に日本画（水墨画）への志（こころざし）が強くなり代表作となった「鶺鴒六題」うかいろくだい（1923）の発表後は水墨画家として精力的（せいりょくてき）に作品を発表していきました。いつの時代も描くことへの信念が強く時代ごとに変化していく近藤浩一路の水墨画は多くの人々に愛され今も大切に伝え続けられています。



1、絵の中に光と影が大切に表現されている。

2、油絵で学んだ知識を取り入れた。

3、漫画家で学んだ知識を取り入れた。



・ 光の表現だよ！  
太陽の光が描かれています。

・ 影の表現だよ！  
小さなシカが山にあらわれて太陽の光が影を作りました。

## ・ 浩一路作品の紹介！



【浩一路は絵を描く道具にこだわりをもっていました。】

大正時代、中国を旅をした浩一路は伝統的な中国の水墨画にふれ、様々な名画に感動し水墨画への情熱が高まりました。また、同時に道具への関心も深まり墨・硯・紙（和紙）・筆など中国の高価な道具を使用することでより素晴らしい作品が誕生することも実感しました。美術館にはそんな道具も紹介しています。

・夏休みは美術館に富士山をみに行こう！ 富士山写真展といっしょに世界遺産 富士山をじっくり観察してみてね。



## 水墨画に挑戦 富士山を描こう！



【1】基本的な道具は、「紙」「筆」「墨」です。

【2】「紙」は本来、和紙をつかいますが、なんともかきたすと破れやすいため、破れにくい**画用紙**をつかいます。（水彩画用紙などもいいですね！）

【3】「墨」は、**書道用**の墨をつかいます。描き方の基本は、「直線」（まっすぐに描いていきます）。

【4】**鉛筆**で下書きをしてから**筆でりんかく**を描きます。

### （用具と材料）

お習字のセットがあれば大丈夫。  
こんな感じにね！

- ① すずり
- ② すみ
- ③ ふで
- ④ ぶんちん
- ⑤ 下敷き
- ⑥ 和紙
- ⑦ 水さし（ふで洗い）
- ⑧ 小皿
- ⑨ 布



【5】富士山の頂上から下に向かって墨をつけていきます。**高いところは薄く**墨を付け、**下に向かって濃く**描きます。何も描かないところは画用紙の白さをそのままのこします。

### ・水墨画と墨絵のちがいは？

水墨画は、墨の濃いところと薄いところを水をたくさん使って表現します。

・墨絵は水を使わないで線画で表現します。

今回は、墨絵→線画の描き方をお伝えします。

### 【6】どう？チャレンジできたかな？

墨にふれるきっかけになるといいな。

お習字を習っている人は、ちょっとひと息つきながら楽しめたら、うれしいです！むずかしく考えないで、好きな絵を描いて、出来上がったなら墨でなぞってみよう。けっこう、すごい絵が描けちゃうかもよ。

出来上がったらぜひ美術館にもって来てくださいね！